

カザフスタンを走る！

カザフスタンってどこ？

APOC に参加しない限り、なかなか行く機会の無い国。
カザフのオープントレインは、一度は走る価値がある。

アジア太平洋オリエンテーリング選手権
Asia Pacific Orienteering Championship
2004年5月21日(金)-30日(水)
カザフスタン ウルチカメノゴルスク



大会マスコットとボランティア

大会の概要

日程は以下のとおりでした。

- 5/21(金) モデルイベント
- 5/22(土) 開会式
カザフオープン<パーク>
- 5/23(日) カザフオープン<ミドル>
- 5/24(月) カザフオープン<ロング>
- 5/25(火) カザフオープン<ミドル>
- 5/26(水) モデルイベント
- 5/27(水) APOC<ミドル>
- 5/28(水) APOC<ロング>
- 5/29(水) モデルイベント
- 5/30(水) APOC<リレー>閉会式

大会全体の参加名簿は配られなかったのですが、参加者は全体で500人程度だと思います。国外からの参加は、日本、香港、オーストラリア、ロシアがそれぞれ30-40人程度で他はごく少数でした。日本は日本旅行ツアー、藤巻さんツアー、新さんツアーがそれぞれ約10人でした。日本旅行ツアーは23日から30日まで参加。藤巻さんツアーは24日から28日まで、新さんツアーは26日から28日までの参加でした。

カザフスタンに行ってきた！

アジア太平洋オリエンテーリング選手権(APOC)は2年おきに開催されていますが、海外の大会としては86年香港、90年カナダ、94年ニュージーランド、98年中国(北京)に続いて5回目。今回の機会を逃したら、なかなかカザフスタンも行けないと考えての参加でした。

カザフスタンってどんな所？

殆どの方がカザフスタンと聞いても場所はわからないでしょう。アフガニスタンと間違えたり、間違えなくても位置関係がわかる人はそういませんね。

下左の地図のとおり、カザフスタンは大きくは中国とロシアと長く国境を接していて、モンゴルの西にあります。元はソ連の一部だったわけで、1991年にソ連崩壊に伴い独立宣言しています。

アフガニスタンはキルギスタンを挟んで南にあります。

地図を見るとわかるように大きい国です。面積は世界で9番目です。といっても緑の豊かな場所は少なそうです。人口は1600万人と、東京より少し多いだけです。人口の50%がカザフ人、30%がロシア人です。カザフ人と一言でいっても色々な民族が混じっていると思いますが、日本の街中に連れてきても違和感のない人がかなり多いという印象でした。

言葉はカザフ語が国家語で、ロシア語が公用語という何だかやっかいそうな位置づけで、両方の言葉で併記しなければならないという規則があるそうです。アルマトイではカザフ語がかなり使われているようですが、U-K市内では殆どロシア語しか使われていませんでした。

オリエンテーリングはロシア人が中心になっていて、世界選手権にも参加していますが、エリートのレベルは日本より低いようです。



カザフ語(左)とロシア語(右)の看板
(カフェ、ディスコバー、カメラ...)



日本旅行のツアーで参加しましたが、日本からの直行便はないので、ソウルからアルマトイに国際便で入り、そこから U-K までは国内便での移動となりました。



夕暮れのアルマトイ空港

アルマトイは南東部にあるカザフスタンで一番大きい都市で、キルギスタンとの間には雪をいただいた山脈が横たわっています。上の写真では空港の南遠くにその山脈が見えています。この山脈は街からも良く見えて、中央アジアのスイスと言われているそうです。

カザフ人の間では宗教はイスラム教が最も信仰されていますが、街中でもベールをかぶった女性は殆ど見ませんし、世俗的な宗教になっているようです。U-K の街には十二支の噴水なんてものもあって原理主義的なイスラムという感じはまるでありませんでした。



十二支の噴水

最近の中東の情勢から治安面が気になりましたが、外務省ホームページにも大きな問題は書いてなく、実際心配は要りませんでした。

通貨はテンゲで、1円 = 1.3 テンゲ程度です。ひとりあたり国民総所得は日本の 1/20 程度で、物価は食料品で 1/3 から 1/4 という感じでした。

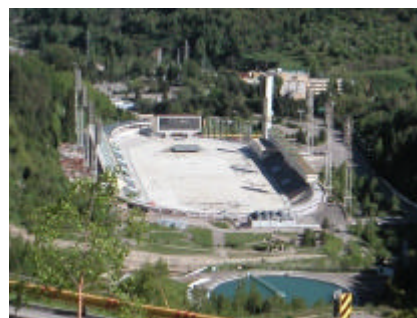
カスピ海の付近には油田があり、また鉱物資源も豊富なようです。しかし国内での仕事は充分には確保されていないようです。帰りのソウル行きの飛行機は我々以外は殆どが黄色いジャージを来た団体だったのですが、ソウル

での 2 年間の出稼ぎに行くとの事でした。

市場はアルマトイでも U-K でも人が多く活気に溢れていました。ドライフルーツ、肉類などが多く、キムチなどを売っている韓国系の店も沢山ありました。

住宅は、市街地ではソ連時代に作られた規格化されたアパートで、外見から推定すると一軒あたりの面積は結構大きそうです。暖房は集中式で各戸には湯沸かし器はないとの事。郊外は平屋の小さい家が多くありました。いずれも老朽化したものが多いのですが、市街地ではレンガで出来た骨格を活かしての改築が盛んでした。

ロシアが衛星をうちあげる基地も実は、この国にあります。パイコヌール基地がそれです。そして、核実験もこの国で大規模に行われていました。大会開催地の西 200 km 程度にあるセミパラチンスクという町で、今も汚染に悩まされているようです。(前ページ地図参照)



メデオのスケートリンク

そしてアルマトイの有名観光地のひとつが上の写真のメデオです。キルギスタンとの境の山脈に登っていく途中にあります。現在では、世界記録を出すのは屋内リンクが主流になってきていますが、それ以前は「ソ連アルマータ(アルマトイの旧名)のメデオと西ドイツのインツェル」(ちょっと古い表現ですね)が記録のでやすいリンクとして有名でした。日本の屋外リンクでは札幌の真駒内が一番大きいと思いますが、同じくらいのスタンドでした。

アルマトイから U-K へ

アルマトイからは SCAT 航空で 2 時間半かかりました。こちらは、AN24 (アントノフ) という旧ソ連のプロペラ機でした。外見も内部もいかにも年代ものという感じでした。搭乗券に座席は書いてあるものの、のったらみんな勝手に好きな席に座っていました。座席の上の棚に蓋はないので重いものは置

けず、そのかわりと言ってはなんですが、操縦席との間に荷物を置く部屋があり、乗客が置きに行ったりしていました。窓もかなり傷だらけで外がすっきり見えないのが残念でした。また、どんなに揺れるかと心配したのですが、安定した飛行でした。

アルマトイと U-K の間は、大きな湖もありましたが、砂漠に近いような地形が殆どでした。

アルマトイ - U-K 間はバスや鉄道でも移動できます。バスだと 18 時間だそうです。鉄道だと一度北に向かい、ロシアまで行き過ぎてから南下していくこととなります。

U-K 到着後は大会主催者側のバスで市内の大会センターに移動して受付。誓約書の記入、外国人登録、写真を撮って参加証を作ってもらうなど随分時間がかりました。

そして、ここで判ったのが毎日早朝バスで会場に向かわなければならないという事。朝 6 時とか、そんな時間なのです。

バスでの苦行

開催地までの距離はそんなに長くはないのですが、未舗装路が殆どなのでスピードが出せないのです。市街地の道も舗装はかなり痛んでいました。

U-K 市内から会場へは観光バスと市街地向けバスからなる隊列での移動でした。我々は殆ど観光バスでしたが、市街地向けバスにのった時は 2 時間以上もクッションの悪い座席で大変でした。



休憩中のバスの隊列

また、市街地向けバスはしばしばエンジンの調子が悪くなるのです。その度に運転手がドライバー一本を持って降りてゆき直すのです。

一度帰りに乗った時は本当に調子がわるいようで、ちょっと進むと止まって調整の繰り返しでした。



修理中のバス

バスに乗っていて面白かったのは、パトカーが先導して進むのですが、対向車が来ると、右側通行にもかかわらずパトカーが左を走って止めてしまい、あいた道をバスの隊列が進むことでした。

このバスでの移動中、なんだか「中越宅配便」と書いてあるトラックに会いました。ロシアへの中古車輸出は有名ですが、ここにも入っているという事ようです。



先導パトカー

カザフオープンカップ

上図の のところがテレインで全部で3レースに参加しました。場所は、U-K 市内を流れているイルティッシュ河の先にある河岸にあるなだらかな丘陵でした。テレインは基本的には見通

しが良く大きな岩が多い地形でした。

レースはすべてスポーツアイデント (SI) で行われました。ほぼ順調に成績の処理は行われていました。こちらにも成績処理のプロがいるようでした。

自分の成績は今ひとつというか、5/24にはコントロールとばしをやってしまいました。



5/25のテレイン

APOC (個人)

上図の のところでした。

27日のミドルは 内の主要道路の北側で、ゆるやかな片斜面で等高線間隔が2.5mの地図でした。かなりテレインの中が丸見えで、走っているのが良く見えました。

スタートを待つ間に子供たちがやたらとサインを貰いに回っていました。

また空には鷹が飛んでいたり、地元の子供たちも遊びに来たり、馬に乗った地元の人も来たりして、中々楽しい1日でした。

Federation of orienteering of East Kazakhstan

Blue Gulf

Scale 1:10 000
h 5 m

M 16			
M 18A			
M 50	2.500		150
M 55			
W 35			

Scale 1:10 000
h 5 m

AKHMAT

1	69				
2	74				
3	75				
4	70				
5	76				
6	77				
7	67				
8	100				

140

R1 R2 R3

We are against drugs

翌28日のロングは の主要道路の南側にあり、保養地のようなところで小さい湖がありました。



テレイン付近の子供たち

コースは湖を回るのだろうと皆考えていて、一方目の前の草原には立入禁止のテープもないので、沢山の人が生理現象を処理しに行ったのです。

ところがところがです。スタートが始まり暫くすると目の前の草原を走っていく人がいるではないですか。みんな唾然としながらもスタートに向かうのでした。



テレイン付近の人

この日もオープンで見通しの良いところでは、遠くの目標を見定めて走ればOKというテレイン、前半はそのやり方で問題なかったのですが、後半で目標を見間違えて大失敗。大きな現在地ロストをしてしまいました。上位にいたNZ人も何かやらかしたようでした。

という事で自分は駄目でしたが、日本人は多摩の高橋(厚)さんほか数名が入賞していました。



多摩の高橋さんは優勝

APOC (リレー)

リレーはロングから中1日を開けて、U-K 郊外の丘陵でした。会場が丘の頂上にあり、その回りを1周してくるコースでした。途中、その頂上の端にあるビジュアルを通過します。声援あり、給水ありの応援でした。

我々以外の日本人は飛行機の関係で既にアルマティに移動していたのが残念でした。



リレーテレイン真ん中の42番ビジュアル(スタート・ゴールの直ぐ近くでした)

なかなかカザフスタンに行くチャンスはないと思いますが、あのオープンテレインは一度走ってみる価値あります。是非、機会があったら参加をお勧めします。

なお「森を走ろう!」のほうには広々とした空間を味わえる360度パノラマほか写真も多数入れた参加記を掲載しています。

<http://www.asobox.com/o/kansou/04/OL040522A/OL040522A.HTM>

Topから右のプルダウン「なんでも記(管理人の参加記)」からも見る事ができます。

次回のAPOCは2006年の年末に香港で開催されます。

(清水 潔)

